京都・平安京左京八条三坊二町

1 所在地　京都市下京区西洞院通塩小路上ル東塩小路町六〇八

2 調査期間　一九八四年(昭59)七月～一一月

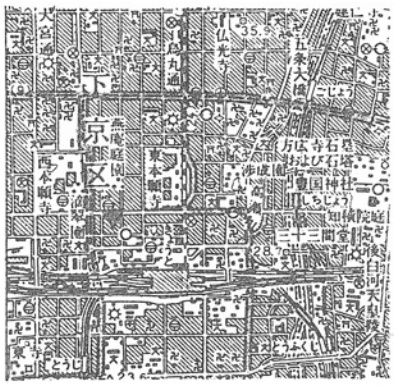
3 発掘機関　平安博物館

4 調査担当者　定森秀夫・片岡　肇・朧谷　寿

5 遺跡の種類　都城跡

6 遺跡の年代　平安時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都東南部)

本遺跡は、当館が昭和五四～五五年に調査した新京都センタービル敷地の西隣りにあたる。

今回の調査では、主な遺構として、平安時代前期～中期の溝、鎌倉時代の常滑・東播系須恵器大甕を使用した甕棺墓や木棺・土壙墓等を検出した。また、江戸時代では用水路によって区画された畑を確認した。

木簡が出土したのは、平安時代の溝で、これは当館が前回調査した大溝の西への続きとなる。溝内はほぼ三層に分けることができたが、木簡は中層の暗灰色粘質土層から出土した。共伴遺物には、多量の土器の他に、人形・櫛・下駄・沓等の木製品や木材片・木片、動物骨・植物遺体があり、少量ではあるが石帯・土錘・土馬等も出土している。墨書土器では、土師器・須恵器とも「大」とかかれたものが多く、他に「人給酒」とかかれている土師皿等もあった。

共伴遺物よりみて、ほぼ九世紀代のものと思われる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「三月十九日　(114)×19×4　051

(2) ・「山代□　(80)×23×4　019
・「六年□(十カ)月□□

(3) 在京□　(69)×(10)×(1)　081

(4) □『芙(節カ)』□(研カ)　(104)×(17)×4　081

(5) □□□□(入カ)　(80)×(11)×(1)　081

(6) □□□　(69)×(12)×3　081

(7)
・「七□□□□
・「□□□
(105)×19×4　051

(8)
『□』中」
(90)×(18)×2　059

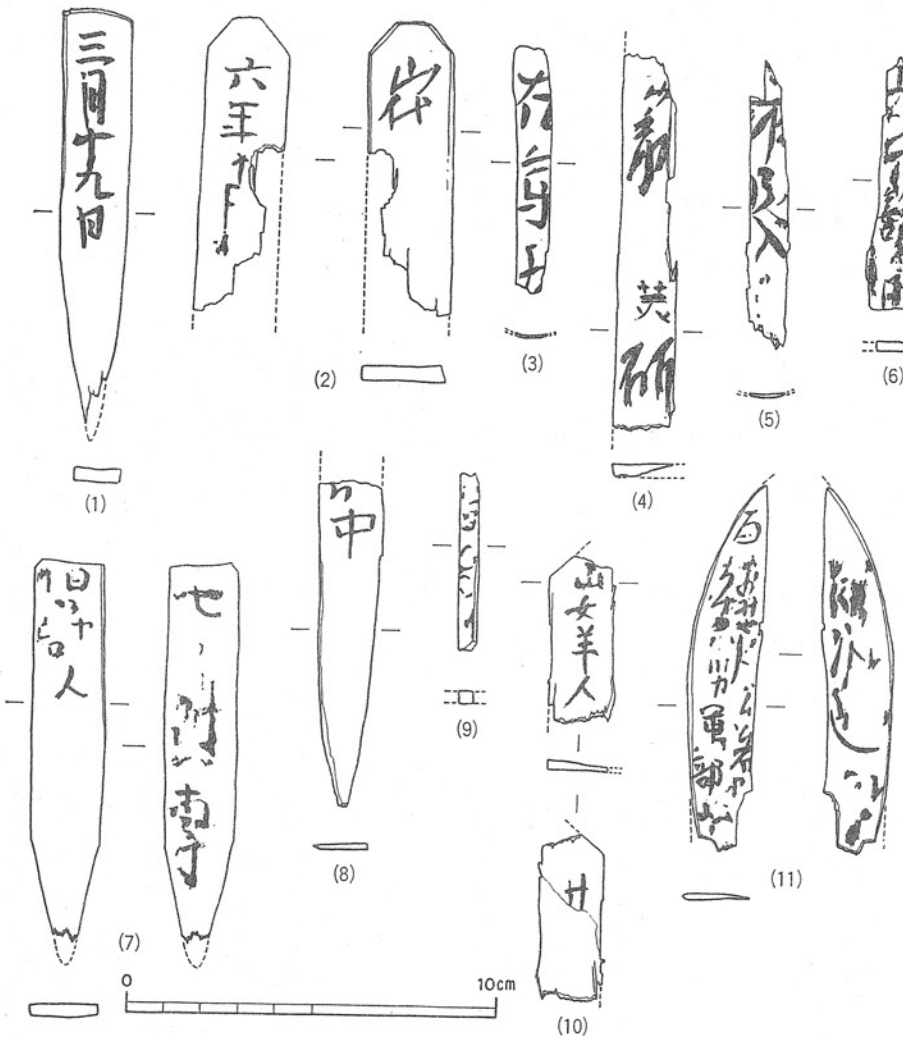
(9)
□□□
(49)×(5)×4　081

(10)
・□女羊人
・□
(45)×(17)×3　081

(11)
・□□也□
・□□□□□
□
□□□□□部□
(110)×(19)×2　065

9 関係文献

下條信行・川西宏幸『平安京左京八條三坊二町』(『平安京跡研究調査報告』第6輯　一九八三年)

定森秀夫・龍谷寿・植山茂『平安京左京八條三坊二町――第二次調査――』(『平安京跡研究調査報告』第16輯　一九八五年)

(定森秀夫)